



③ 秋山兄弟生誕地
戦災で焼失した秋山兄弟の生家を、地元有志たちの尽力で復元。ボランティアによる案内で、邸内の見学も可能。
■住/松山市歩行町2-3-6
■問/☎089-943-2747
■営/10:00～17:00
月曜休館(祝日の場合は翌日)



④ 子規堂(正宗寺)
正岡家の菩提寺に整備された子規の記念堂。室内には子規の勉強部屋の再現も。境内墓地には子規の埋髪塔もある。
■住/松山市末広町16-13
■問/☎089-945-0400
■営/8:30～17:00 無休



① 坂の上の雲ミュージアム
秋山好古・真之兄弟と正岡子規の生涯や小説の舞台となった明治時代を紹介。
■住/松山市一番町3-20
■問/☎089-915-2600
■営/9:00～18:30
月曜休館(休日の場合は開館)
※見学自由



② ロシア兵墓地
日露戦争で捕虜となり松山で亡くなったロシア兵97人の墓で、今も地元中学生や住民の手により守られている。
■住/松山市御幸1-531-2
■問/☎089-911-1863
(松山市生活衛生課)
※見学自由

秋山真之銅像

秋山好古銅像
梅津寺にあるよ!



騎兵第1旅団長として、日露戦争で活躍した秋山好古。弟の真之も同じく日露戦争で活躍し、日本海軍の兵学の基礎を築き上げました。正岡子規は、真之の同級生でした。この3人を主人公とした小説『坂の上の雲』は、激動の明治時代に、高い志をもってひたむきに生きた人々の様子を描いています。今も松山には、3人のゆかりの地が残り、近代日本に大きな足跡を残した郷土の先人たちが市民は誇りに思っています。

小説の世界観や明治時代の松山の様子、3人の人生に触れられるのは、『坂の上の雲ミュージアム』。全国から司馬作品のファンが足を運ぶほか、



坂の上の雲ミュージアムには新聞連載の壁が!

In *Saka no Ue no Kumo* ("Clouds Above the Hill"), a novel written by Ryōtarō Shiba, the main characters are the Akiyama brothers (Yoshifuru and Saneyuki Akiyama) and Masaoka Shiki, all of whom were from Matsuyama City. Walking the streets of Matsuyama, one can find proofs that these figures who left great legacies in the modern history of Japan were born and did live in this city.

司馬遼太郎さんの小説『坂の上の雲』の主人公、秋山好古・真之兄弟と正岡子規。松山に生まれた彼らは、明治という激動の時代を駆け抜け、その足跡は今も松山に色濃く残っています。

『坂の上の雲』のまちづくりに取り組む市民の活動拠点にもなっています。また「秋山兄弟生誕地」には、秋山兄弟の生家が原形に近い形で復元されており、好古の騎馬像や真之の胸像が置かれています。一方、正宗寺境内にある「子規堂」は、子規が17歳まで暮らした家を復元。室内には子規の遺墨や遺品、直筆原稿などが保存されています。

松山は『坂の上の雲』の世界を肌で感じることで、3人の偉人たちの生き方に思いを馳せながら、ゆつくりとまち歩きすることで、新たな松山の魅力を発見できるかも。

『坂の上の雲』のまち松山

秋山兄弟・子規の足跡をたどって



『坂の上の雲』を軸とした21世紀のまちづくり

松山市では、小説『坂の上の雲』の主人公3人が抱いた高い志とひたむきな努力、夢や希望をまちづくりに取り入れています。市内の各地に残る小説ゆかりの史跡や地域固有の資源を、行政と市民がともにみがき、活用し、一体となってまちを元気にしていこうと取り組んでいます。こうした地域資源が点在するまち全体を「屋根のない博物館」に見立て、回遊性の高い物語のあるまちを目指す「フィールドミュージアム構想」を展開しています。

フィールドミュージアム構想

センターゾーン
中心市街地。交通と観光の拠点で、坂の上の雲ミュージアムを中心に、松山城、秋山兄弟生誕地、子規堂など、小説ゆかりの史跡・施設も多くあります。

サブセンターゾーン
道後温泉、松山総合公園、三津浜・梅津寺、久谷・砥部、風早、忽那諸島の6つの地域を設定し、固有の地域資源を活かしたまちづくりを進めています。

サテライト
小説ゆかりの地を含む地域資源で構成されています。センターゾーン、サブセンターゾーンを結ぶ役割を持ち、ネットワークと回遊性の機能を高めます。



秋山兄弟生誕地にある秋山真之像



公益財団法人常盤同郷会
秋山兄弟生誕地理事
宇都宮 良治さん

コラム ここがいい、加減。

地元の人々が愛着を持てる場所

秋山好古・真之兄弟が生まれ育ち、晩年、故郷で中学校の校長先生を務めた好古が暮らした場所に「秋山兄弟生誕地」が建てられたのは2005(平成17)年。地元をはじめ、全国の秋山兄弟を愛する方々の募金により、実現することができました。松山から大志を抱いて飛び出していた二人は、東京で学び、日本のために尽力。その生き方が多くの方の心に響いたのだと思います。また地域の方々に、花飾りや行事に積極的に参加していただくことや、小学生から高校生まで、多くの学生さんが見学してくださるのをも嬉しく思っています。

■ 秋山兄弟とは

兄の秋山好古は1859(安政6)年、弟の真之は1868(慶応4/明治元)年、松山藩の下級武士・秋山家に誕生。好古は大阪師範学校に学び、小学校教師となるが、その後、陸軍士官学校へと進み、陸軍軍人の道を歩みはじめる。日露戦争では騎兵第1旅団長として出征し、日本の勝利に貢献。「日本騎兵の父」と呼ばれている。真之は海軍兵学校へと進学。日露戦争の日本海海戦では作戦参謀としてロシアのバルチック艦隊撃破に貢献。



秋山好古

秋山真之